

平成・令和の大修理！

# 唐津城石垣16年の解体新書

修理石垣探訪

## 石垣先生の総回診

日時 令和6年12月8日（日）10:30～  
場所 唐津城跡本丸 上段広場（唐津市東城内）  
主催 唐津市教育委員会

唐津城石垣再築整備事業完了記念イベント用リーフレット



青字の石垣 ▶ 自然石と割石  
赤字の石垣 ▶ 割石のみ

唐津城石垣再築整備事業で修理した  
石垣を中心に  
担当者が扮する石垣先生と  
総回診しながら  
唐津城石垣の  
見所を巡りましょう

■唐津城石垣再築整備事業完了記念イベント用リーフレットは、令和6年9月3日から令和7年2月16日まで開催するパネル展「唐津城石垣ビフォーアフター」展の内容を基に作成した。令和6年12月8日に開催する、修理石垣探訪「石垣先生の総回診」で使用するほか、関連イベント等で使用する。  
■本イベントの企画・運営、および本書の執筆・編集は、坂井清春（唐津市教育委員会生涯学習文化財課）が担当した。  
■編集・刊行：唐津市教育委員会  
■発刊日：令和6年12月8日

平成・令和の大修理！

# 唐津城石垣16年の解体新書

パネル展

## 唐津城石垣

# ビフォー

# アフター

石垣修理が完了し、  
元の姿に戻った唐津城石垣。

でもよく見ると  
なんだかちょっと変わりましたよ。

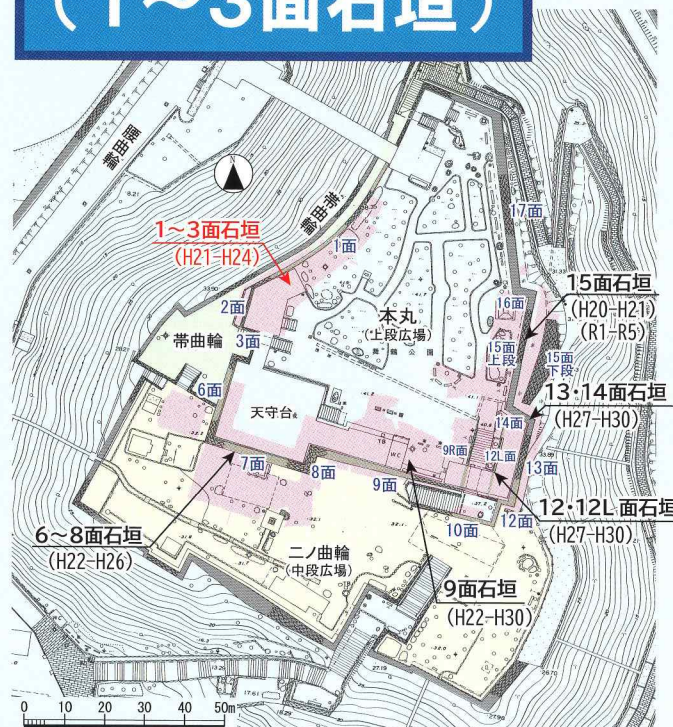
唐津城石垣がどう変わったのか、  
石垣修理のビフォーアフターを  
石垣内部もあわせて  
ご覧ください。

主催 唐津市教育委員会

期間 令和6年9月3日～令和7年2月16日  
場所 唐津城上段櫓（唐津城天守閣の東隣）

唐津城石垣再築整備事業完了記念イベント用リーフレット

# 本丸西側 (1～3面石垣)



唐津城跡本丸の石垣番号

## 石垣解体後全景



## 石垣解体前

## ビフォー



## 石垣解体後



## 石垣修理後

## アフター



櫓風収蔵庫のコンクリート基礎杭を残したままの石垣解体となりました。2面石垣のはらみが特に激しく、根石（石垣の最も下の石材）まで解体しなければならないほど、長年にわたる石垣へのダメージが蓄積していました。

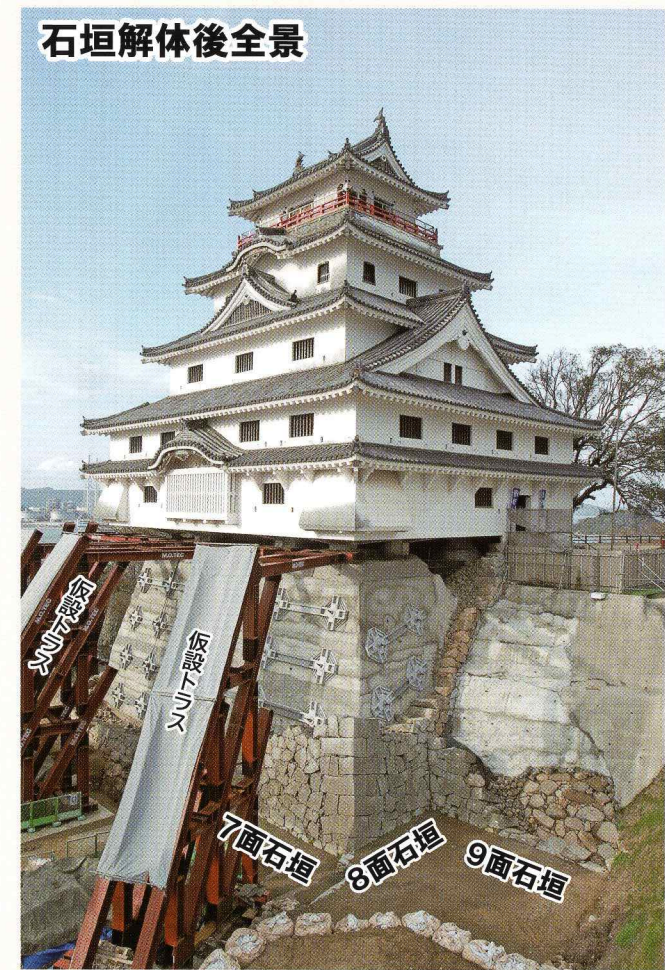
現在は、石垣の上に櫓風の収蔵庫が復旧されています。

# 天守台石垣 (6～8面石垣)



唐津城跡本丸の石垣番号

## 石垣解体後全景



## 石垣解体前

## ビフォー

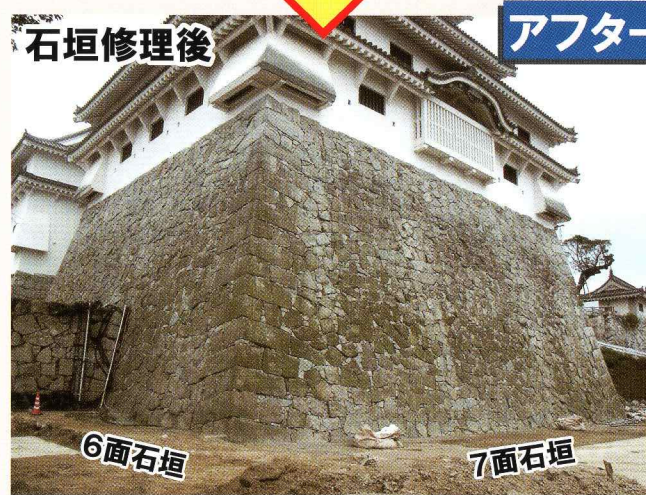


## 石垣解体後



## 石垣修理後

## アフター



天守閣建物をそのまま残し、コンクリート基礎杭を一部露出させたまま解体作業を進めました。ですので、石垣修理中は天守閣建物の南半分が宙に浮いたような状態。赤色のH鋼材を組んだ仮設トラスを、コンクリート基礎杭に当てがっています。このような状況で石垣修理した事例は無く、全国初の工法となりました。

清成神社 (9面石垣)

1~3面石垣 (H21-H24)

1面

2面

3面

帯曲輪

6面

天守台

7面

8面

9面

9面石垣 (H22-H30)

10面

11面

12面

12・12L面石垣 (H27-H30)

13・14面石垣 (H27-H30)

15面下段

15面石垣 (H20-H21) (R1-R5)

16面

17面

本丸 (上段広場)

二ノ曲輪 (中段広場)

御田

御田

0 10 20 30 40 50

石垣解体後全景

9面石垣

9R面石垣



石垣裏の盛土に、海砂を用いていましたので、砂が流出ないようにシートや仮設モルタルで覆っていました。

Architectural site plan of the Kofun of Prince Arima, showing various stone terraces and structures. The plan includes labels for stone terraces 1-3, 6-8, 9, 13-14, 15, and 12-12L, as well as structures like the Main Hall (本丸), Watchtower (天守台), and various gates (帯曲輪, 二/曲輪). A scale bar at the bottom indicates distances from 0 to 50 meters. A north arrow is located in the upper left quadrant.

石垣解体中全景

9面石垣

12面石垣

12L面石垣

13面石垣

門礎石



12L面石垣は、本丸大手門の東側を構成する石垣。江戸時代には、9R面石垣との間に大手道が通り、2つの石垣をまたぐように櫓門が設けられていました。文化財調査では、櫓門の柱を支える礎石が見つかりました。

# 本丸南東 (13・14面石垣)



唐津城跡本丸の石垣番号



石垣解体前



ビフォー

石垣解体後



石垣修理後



アフター

13面石垣北半から14面石垣にかけて、昭和30年代に地盤がえぐれる程の大崩落が発生したようです。これを間知石垣で修理していました。この間知石垣部分は、築城期の特徴を持つ石垣に復元しました。

石垣解体時には、仮設のコンクリート擁壁を設けて安全性を確保しながら作業を進めました。

# 本丸東側 (15面石垣)



唐津城跡本丸の石垣番号

石垣解体後全景



石垣解体前



ビフォー

石垣解体後



石垣修理後



アフター

上下2段にわたる石垣。谷地形であった場所に15面下段石垣を築いて谷を塞ぎ地盤を固め、その上に15面上段石垣が築かれています。

事業開始当初の平成20年度から解体し、解体範囲には事業期間を通して工事用の仮設道路を設置していました。事業の最終段階にあたる令和5年度に積み上げを完了しました。